

令和5年度

第3回 入間市公民館運営審議会

日 時 令和6年3月14日(木)
午前10時00分～

会 場 入間市庁舎 501会議室

次 第

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 確認事項

- (1) 前回の入間市公民館運営審議会における確認事項
「学校運営協議会及び地域学校協働活動の組織について」

4 協議事項

- (1) 令和5年度入間市公民館運営審議会 報告について

5 報告事項

- (1) 令和5年度入間市社会教育委員会議「地区センター移行後の公民館の役割について」

6 その他

7 閉 会

入間市公民館運営審議会委員名簿

任 期 : 令和5年5月1日から令和7年4月30日まで

| No. | 氏 名 | 選出区分 | 所属団体等 | 新・再任 の別 | 備 考 |
|-----|-------------------------|--------|------------------------------|------------|-----|
| 1 | いま いずみ だいじろう 今 泉 大二郎 | 金子中学校 | 学校教育関係者 (金子中学校長) | 再任 | |
| 2 | いよた 伊與田 まり 利 | 扇町屋公民館 | 社会教育関係者 (アレンジメントフラワーサークル) | 再任 | |
| 3 | にしざわ ひろこ 西 澤 裕 子 | 黒須公民館 | 社会教育関係者 (事業講師) | 再任 | |
| 4 | なかにし かずとし 中 西 一 敏 | 東町公民館 | 社会教育関係者 (歴史サークル) | 再任 | |
| 5 | つかはら とみこ 塚 原 とみ子 | 東金子公民館 | 社会教育関係者 (スポーツ協会) | 再任 | |
| 6 | なみき しげよし 双 木 茂 芳 | 金子公民館 | 社会教育関係者 (スポーツ協会) | 新任 | |
| 7 | おかざき さちこ 岡 崎 幸 子 | 宮寺公民館 | 社会教育関係者 (福祉ボランティア団体) | 新任 | |
| 8 | きのした えいじ 木 下 英 次 | 藤沢公民館 | 社会教育関係者 (文化協会) | 再任 | |
| 9 | こやま てるひさ 小 山 輝 久 | 東藤沢公民館 | 社会教育関係者 (スポーツ協会) | 再任 | |
| 10 | かいさか たけし 開 坂 武 | 西武公民館 | 社会教育関係者 (文化協会) | 再任 | |

※ 公民館運営審議会は、館長の諮問に応じて公民館における各種事業の企画実施について調査・審議します。(社会教育法第29条)

| 関係職員名簿 | | | | |
|--------|-------|-----|-----------------|-------|
| No. | 所属名 | 役 職 | 担 当 | 氏 名 |
| 1 | 教育部 | 部 長 | | 浅見 嘉之 |
| 2 | 教育部 | 次 長 | | 佐藤 政史 |
| 3 | 社会教育課 | 課 長 | | 浅川 英雄 |
| 4 | 社会教育課 | 主 幹 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 奥村 芳人 |
| 5 | 社会教育課 | 副主幹 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 粕谷 満 |
| 6 | 社会教育課 | 副主幹 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 片寄 智恵 |
| 7 | 社会教育課 | 主 任 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 新井 竣介 |
| 8 | 社会教育課 | 主 任 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 入部 兼徳 |
| 9 | 社会教育課 | 主 任 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 長谷川 功 |
| 10 | 社会教育課 | 主事補 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 今井 優衣 |
| 11 | 社会教育課 | 主事補 | 生涯学習・社会教育・公民館担当 | 岩崎 楓 |

令和5年度入間市公民館運営審議会 報告

令和5年度の入間市公民館運営審議会では、第2次入間市公民館基本計画（令和4年度～令和8年度）の基本目標の達成度から、現在の公民館について検証を行いました。

1 基本目標の達成

・基本目標1 人づくり

- (1) 暮らし豊かにし、地域を活性化する学びの提供
- (2) 住民の主体的な学びの支援

①達成 2名 ②ある程度達成 5名 ③達成していない 2名

【公民館利用者の固定化】【魅力ある事業、PRの不足】【公民館職員との距離】

- ・公民館利用者（団体）が固定化しており、高齢化によりサークル数が減少している。
- ・新たな公民館利用者へ、魅力ある事業等の働きかけが不足している。
- ・地区センターだよりは、事業の参加者募集ばかりで、魅力ある事業報告が少ない。
- ・公民館は数々の事業を行なっているが「人づくり」につなげていない。
- ・「サークルづくりに向けた教室」など、よい事業はあるが、PR不足である。
- ・地区センターにより分館になり、職員の不在で距離が遠くなったと感じます。
- ・公民館によっては、地域に根差した各種事業を実施している。

・基本目標2 つながりづくり

- (1) 学習情報、地域情報の提供
- (2) 学習や活動の成果を発表する機会の提供
- (3) 情報交換の場の提供

①達成 2名 ②ある程度達成 4名 ③達成していない 3名

【情報提供の未整理】【活気ある事業が少ない】【コミュニケーションスペース不足】

- ・公民館のポスターの掲示が、種々雑多で整理されていないために見づらい。
- ・文化祭に飲食の屋台等がなく、出品者、出演者のみの集りになっている。
- ・公民館にコミュニケーションを図るスペースがなく、気軽に話し合いができない。
- ・東町文化祭は、東中吹奏楽部の演奏、豊岡小・中生の作品展示を行い賑わいがあった。
- ・東町公民館の利用者懇談会では、公民館に対する利用者からの改善意見を求めている。

・基本目標3 地域づくり

- (1) 地域ぐるみ子ども・子育て支援の促進
- (2) 地域活動の促進

①達成 2名 ②ある程度達成 3名 ③達成していない 4名

【主体的な活動の不足】【団体との連携不足】【公民館による格差】

- ・地域学校協働活動は、よい活動だが、具体的活動をしている声は聞いていない。
- ・地域づくりは自治会・スポーツ協会等が実施しているが、公民館は共催という形で、主体的な活動目標を協議する場がない。
- ・色々な団体が活動しているが、情報交換の場がないので、お互いが分かっていない。
- ・長期休暇中の子どもの居場所づくりは、学校との連携が十分でない。
- ・保育園との共催で「子育て応援講座」を開催し、大勢の賛同を得ている。

2 基本目標達成に必要なこと

・基本目標1 人づくり

【人を育てる事業】【公民館職員の目標の共有】【地域へのPR】

- ・人は人から学ぶという言葉がありますが、人が育つ場が何か考えた事業を考えてほしい。
- ・社会教育課が企画し公民館が十分理解し、一般市民にPRし共に実践することに尽きる。
- ・次世代につなげる活動の方法を考え、地域の情報と提供を進める。
- ・公民館としての目標を立て、独自でも良いから活動を進める事が重要です。
- ・あらゆる事業には人員と予算が不可欠であり、それらを補完するのが創意工夫・知恵だが限度があるので、現状の範囲内では精一杯の成果を上げていると思われる。

・基本目標2 つながりづくり

【コミュニケーションスペースの提供】【新規利用者を開拓する事業】

- ・地区センター移行により、ロビーが住民事務スペースとなり、話し合える場所が減ったので、コミュニケーションを図る場所を設ける必要がある。
- ・公民館としての目標を立て、独自でも良いから活動を進める事が重要です。
- ・サークル活動者の他に、若い方が興味を持ってそうな企画が必要なのでは。

・基本目標3 地域づくり

【地域特性の把握】【計画と実践】【各種団体の話し合いの場】

- ・職員が担当地区の住民の年齢層など、地域の特性を把握する必要がある。
- ・人づくり→つながりづくりが出来ていけば自然と地域づくりはできる。
- ・各地域ともそれぞれの計画を市・社会教育課・公民館がいかに関心させるか、そして一般市民がそれを理解して実践するかが必要と思う。
- ・公民館としての目標を立て、独自でも良いから活動を進める事が重要です。
- ・子ども食堂を充実し、深刻な状況下の子どもをいち早く見つけられればと思います。
- ・新たな環境で入間市公民館基本計画を達成していくにはかなりの時間が必要です。
- ・自治会、地域団体、地域住民、学校、公民館職員による地域を考える話し合いの場が今まで以上に必要であり、地域全体で協力できる環境を整えていく事が必要ではないか。

3 皆様が考える理想の公民館

【気軽に利用できる雰囲気】【職員のコーディネート力】【幅広い利用者が集まる公民館】

- ・館長と、気軽に協議ができ、公民館の在り方、学校等への協力等の話ができる関係。
- ・明るい笑顔で利用者が話しかけやすい、相談しやすい、温か味のある場であってほしい。
- ・決まり事があるのはよいが、不足の分のアドバイスができる職員がいるとよい。
- ・お互いに感謝しあえる、人と人とのつながりができ、サービス力がある公民館。
- ・気軽に立ち寄り多くの学びを提供し、より多くの住民をコーディネートするところ。
- ・その地域の全体を対象に公民館を利用して頂けるようにしたいです。
- ・多世代の人々が公民館を利用できるような事業の企画を実施し、地域住民が親しみ易く来館し易い公民館であることを期待します。

地区センター移行後の公民館の役割について

令和5年度から地域づくりの拠点施設として、地区センターが開設されましたが、公民館は、引き続き、地域における社会教育の推進拠点としての役割を担うことから、社会教育委員会議では、その役割を担うために必要な事業の提案や公民館に求めるものを、「第2次入間市公民館基本計画」の3つの基本目標に沿って整理しました。



1 公民館をめぐる現状・課題

- 公民館の何が変わったのかわからない。→地区センターは地域の拠点施設を目指し、地域づくりを推進することを PR
- 利用者が高齢者し、内容もだいたい趣味的なものが多い。→地域づくりに生かせるようなテーマ設定が重要
- 核家族化に象徴されるように、地域の中でつながりがない。→地域づくりに視点を置いた公民館運営

2 公民館の充実・発展のための具体的方策 ～第2次入間市公民館基本計画の実現に向けて～

基本目標1 人づくり

- 地域を活性化する学びの提供を ⇒人権、SDGs、貧困問題、子育て、防災など^{*1}必要課題を関係団体と連携協働により実施。
*1 自発的に学びたいとは思わないが、避けて通ることができない社会や地域の問題
- 大局的な方向性を議論する運営委員会とは別に、地域の人と職員が互いに気持ちをぶつけあって、一緒に事業を企画する場があつてよい。⇒住民の主体的な学びの支援 ⇒「^{*2}住民自主企画教室・講座等提案制度（企画運営団体募集事業）」の推進
*2 地域住民が仲間づくりをしながら、楽しく学び合う場を作ってもらえるようにすることを目的に、教室・講座の企画・運営・団体を公民館が募集するもの。

基本目標2 つながりづくり

- 公民館を学校の頃からよく来ている場所にする。⇒^{*3}近隣の小学校や団体との連携
例) こども食堂/小学生の居場所づくり/不登校児童生徒の居場所/書道サークル等とのつながり、PTAの活動場所、吹奏楽部のホール利用、文化祭での作品展示
*3 不登校児童生徒の居場所事業としては、現在、市教育センター、青少年活動センター・豊岡ブチ大学（NPO マナビダネ）等がある。
- 小学2年生校外学習の地域めぐりの人気候補地に。 例) クイズラリー
- 学習支援の場として、公民館を使えば、みんなが歩いていける範囲にあることになる。
- 高校生や大学生など若者への働きかけを ⇒SNSの積極的な活用を。
・映えるようなイベントを公民館、商店等市内全体で展開する。 例) 入間の乱
・市全体あるいは公民館ごとに企画から実施までを若者たちだけの手作りで実施 例) 万燈まつり/小学生との遊び企画
- 小中高生は場所を求めている。ダンスの練習。試験前の勉強。文化祭の準備。図書館ではしゃべれない。学校でも家庭でもないところ ⇒^{*4}第三の居場所としての公民館
- 職員は旗振り役を ⇒情報交換の場を提供。地域で活動する多様な団体等の連携、協働を促進するために、「^{*4}公民館地域活動関係団体情報交換会議」の開催
*4 各公民館で活動する団体等により、日頃の公民館活動における課題等の解決に向けた情報交換や協議する場を設置することで、団体等の連携、地域活動への協働を促進することを目的とした会議。
- 学校の部活動、特に文化部の地域移行の中で、公民館が必要になるのではないか。

基本目標3 地域づくり

- 地域との楽しい事業の展開 ⇒やらされ感がなく、一緒に楽しくできることが大事。
例) 金子公民館のチョークアート、藤沢スマイルの健康体操など
- 公民館側からの積極的な仕掛けづくりを。⇒団体がつながるような仕掛けを企画するのは大事。⇒公民館の活性化につなげる。
・役員に頼むのではなく、潜在的なボランティア志願者の積極的な活用を。 例) 保育ボランティア
・^{*5}「地域活動団体誕生応援制度」の推進
*5 子育て広場、子ども食堂、高齢者サロン等地域住民を対象に行う事業を地域住民が新たに設立する場合に、その設立や活動を支援する制度で、これにより住民の主体的な地域活動への参加を促進する。
- 子育て世代の保護者、乳幼児、小学生を公民館活動に取り入れ、時間をかけて関わりを育てていく。 ⇒子どもに関わる学習や活動から地域活動の気運を高めていき、住民同士の連携、協働の輪を防災や福祉活動等につなげていく。
- コーディネーター的な人材の育成 ⇒・地域の人材と学校のニーズを結ぶ。・高齢者の活動と子どもたちを結ぶ。
・地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図るために、「^{*6}地域学校協働活動」の推進
*6 地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う、さまざまな活動。
⇒ 令和5年度に「^{*7}地域交流研修会」を開催し、地域学校協働活動の体制整備を促進
*7 平成20年度から「地域で子どもたちを育てる活動」を展開し、現在19団体、構成メンバー1,000人を超える会。